

## 憲法記念日を楽しく・意義あるものに！

### ブルーシートを持って参加しよう！

今年も5月3日がやってきました。みんなで水戸千波湖はなみずき広場に集まろう！平和委員会はこのよびかけに応えて奮闘してきた。しかし、いま一つもの足りない感じがしていた。何か1歩足が出ないだろうか。それは、「平和委員会らしく5・3をどう迎えたらいいのだろうか」「平和委員会らしい、取り組みにするにはどうしたらいいのだろうか」という事だった。みんなが一緒にやれること。憲法記念日にふさわしい「つどい」。新たな運動のステップになるような行事等々。なかなかいい知恵が出ないでいた。今回、これらの問題について水戸西平和の会が答えの半分位を出してくれた。松原さんが「伊達さん、水戸西は5月3日はシートを持って行ってみんなで憲法について話し合うことにしたよ」という。「これだ！」と思った。

中央の舞台で若者のミュージックや踊りを見るのも由、講演や対談を聞くのも由。同時にわれわれは、各平和委員

員会がブルーシートを敷いてお茶やビールなどを飲みながら憲法について思い思いの事を語り、向こう1年、地域・職場でどんな事がどのくらい無理なく出来るだろうか。さんな場をつくり会場に20～30枚のブルーシートを敷いて楽しく語り合い1日を過ごせたら意義ある記念日になるのではないだろうか。そして、平和委員会だけでなくいろいろな市民団体・個人の方々がこのような形で参加して「憲法広場」になれば「憲法守れ」の運動に大きな役割を果たしていくのではないだろうか。平和委員会はその先鞭をつけていくためにも、今年もみんなで「ブルーシートを持って参加しよう！」を合言葉にして参加したい。各平和委員会でも大いに知恵を出し合って5月3日を盛り上げよう。



## 美浦村、平和委員会再建に活動開始！

早く行かなければいけないと思っていながら「つつい忙しい」という事で行けなかった美浦トレセンに4月10日、15年ぶりに出かけました。美浦村平和委員会が解散されて10年ぐらいになるのでしょうか。此の間その主力であった美浦トレセン労組の「内紛」で平和委員会の活動がありませんでした。今回、水野さんと一緒に平和委員会を再建するために全労連・全国一般美浦トレーニングセンター美駒労組を訪れました。かつての美浦トレセン労組から分かれた茨城労連傘下の組合です。

執行委員会の前に、美浦村の平和委員会を再建するため

に、とりあえず10名の入会者、地域の民主団体への働きかけ、そのために連絡窓口になたかなってほしい、の3点を要請。

春闘真っ只中の闘っている労働者に理屈は不要。若い書記長の磯部さんは「わかりました」。長山さんは「伊達さんの事よく知ってるよ。俺が窓口になってやるよ」、20年ぶりに会った同じ学年の村上善豊さんは「10名位何とかしてくれるよ」と、みんながこころよく受け取れました。久しぶりに旧交を温め、新たな組織づくりに胸を踊らせ水野さんと分かれて帰路についた。

## JASCO 前ハンドマイクで「国民投票法案」の反対を！

東海村平和委員会 加藤岑生

東海村平和委員会は4月1日（日）11時半から13時まで県が作成したチラシ配布と反対署名そして2人交代でハンドマイクでの国民投票法案反対の訴えをしました。

心地よい春風が憲法は世界の宝の幟をたなびかせ、駅から駐車場からJASCOに足早に買い物に向かう人にチラシを手渡し、署名を訴えました。

署名してくれたおばあさんが、帰り道、「どれくらい署名が集まった」と聞いてきました。「10名です」と応えると「関心が少ないのかな」と残念そうに。でも激励の声をかけてくれました。自動車を脇に止め、お年寄りの男性が降りてきて署名をしてくれました。「ご苦労様」と声をかけてくれました。また、たどたどしたハンドマイクの訴えに署名に応じてくれ、やはり声の出ず宣伝はそれなりに効果があるのだなと感心したりして元気に宣伝行動をしました。

宣伝参加は会長と事務局長の2名、配布チラシ150枚、署名10名の成果を上げました。

東海村平和委員会は会員協力を得て近所周りに一人当たりチラシ10枚の配布（430枚）をお願いしています。また、幹事が中心になって団地などに配布しています。1000枚のチラシの配布に挑戦しています。

## 平和かわら版

469

月3回発行

2007.4.15

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



# 憲法九条は世界の宝だ！

つくばみらい平和の会 市川 和子

世界を駆ける特派員、伊藤千尋氏の講演を聞く機会があった。日頃マスコミでは報道されない世界の姿、日本の今が良くわかった。憲法九条は世界の宝だ！

西アフリカ・カナリア諸島には、日本国憲法九条の碑があるという、高速道路をつくったときできた小さな空き地。ヒロシマ、ナガサキ広場と名づけ、そこに日本国憲法の稗をたてた。

どこにあるのか、世界地図を広げて見た。なんと日本から一番遠いところの島だ。平和憲法を持つ国。「常備軍を持たない」と憲法に明記した国は世界で二つだけ。日本とコスタリカ。コスタリカは人口400万人、広さは北海道くらい。教育費も医療費も無料の国。平和憲法の成立は1949年。その前年コスタリカの内戦で、2ヶ月で2000人死亡した。

何事も対話で解決しよう。武器があるからいけない。国家予算の30%を占めた軍事費をなくし、国家発展のため教育費に使おう。兵士の数だけ教師をつくろう。去年、国家予算の21%が教育費。国民の10人に1人が教員免許を持っている。

コスタリカでは、小学生でも違憲訴訟をする、最少年は小学二年生。小学校のサッカー場脇の堀に柵がない、というもの。難しい手続きなどいらぬ。電話をかけるだけで後は国がやってくれる。小学校でまず教わることは、「人は誰でも愛される権利がある」。これが侵されたら誰でも訴えられる。

憲法は権力を持った人が守らなければならないもの。国民にとって憲法は使うもの。コスタリカの誰もが「平和の国」に自信を持っている。

隣の国も平和にしよう！

平和国家とは、周りの国も平和に！

平和を輸出する国コスタリカに学びたいものである。

つくばみらい平和ニュース 9号より転載

# 全く 戦争ほどバカげた事はない

稲敷市 岡野 千恵子

さんの話が心に残ります。

「自分は戦地に送られずにすんだが、50軒の集落の中から17人の戦死者が出た。皆やさしくて頭のいい人達ばかり。

全く戦争ほど馬鹿げた事はない。そこからの反省と教訓をふまえて、多くの人が力を合わせて作り上げた憲法のどこが悪いというのか。平和を守るためには決してあきらめず地道に運動を続けていかなければ。

4月から大学生と高校生になる息子さんと一緒に参加してくれたお母さんもいて、有意義な集まりとなりました。

## 「憲法の語り部に」

茎崎九条の会 事務局長 野口久寿美

茎崎9 徐の会設立一周年記念講演会が、3月18日開催されました。講師は立正大学の金子勝教授。

講演に先立つ総会で会員の拡大・学習会の継続など、本年の方針を確認しました。

金子先生はこの講演に当たり20頁のレジメと自民党新憲法案全文を含む参考資料B4版8枚と言う膨大な資料を用意下さいました。先生は講演の始めでこの点に触れ「皆さんに憲法の語り部になって頂きたいから」と言われました。

映画『日本の青空』に登場する鈴木安蔵氏の直弟子で落語と漫画が趣味と言う先生だけあって、大きな声に身振りを加え90分熱演されました。

講演のテーマは『憲法改正問題の現状と国民投票法の問題点』でした。豊富な資料を生かし明快な講演は核心を突くものでした。30名の参加でしたが、語り部としての想いを抱いたことを確信しました。

江戸崎平和の会からのお誘いで、3月26日の憲法学習会に参加しました。

短い時間の中で講師の伊達さんから九条の中身をわかり易く丁寧に教えて貰いました。

平和な社会を次の世代にきちんと引き渡したいと言う想いを、一步踏み込んで行動に移す勇気や力はやはり学習することで湧いてくると思いました。

「もう古くなったから」とか「アメリカに押しつけられたのだから」など様々なごまかしをきちっと見極め世界に誇る日本の平和憲法を自信をもって多くの人に語り、手をつなぎ改憲勢力を押し返さなくてはと思います。

参加者の中で唯一徴兵され訓練中に終戦を迎えたと言うK

## 水戸 5.3 2007年憲法フェスティバル茨城」の集い 財政的に支えるために 個人1000円 団体3000円の浄財を

私たちは、各界・各層の団体・個人が「平和憲法をまもろう」という一点で共同し、手をつなぎあって、憲法改悪を許さない世論を県民過半数に広げていこうと、その形態は様々ながら毎年の憲法記念日に「統一集会」の開催を支援し参加してきました。

この集いを財政的に支えるために、賛同者(団体)から『個人1口1000円、団体1口3000円』の賛同金を募っております。沢山の県民の浄財で成功させましょう。ぜひご賛同下さい。

### 集金・送金方法

各会の責任者へ手渡ししてください。又は

郵便振替 口座記号 00180-8

口座番号 33161

加入者名 「憲法ネットいばらき」

### 事務局便

今年の一月県平和委員会事務局に入った藤田稜威雄さんが日本平和委員会機関誌「平和新聞」3/5号一面に顔写真入りで載った。日立電線で管理職にまで昇格「企業人そのものだった」彼が原水爆禁止世界大会に参加して今に至る彼の平和運動の原点の記事と一緒に、今彼は大津港から電車赤塚駅に、そして自転車でここまで通っている。(ま)